



東京学芸大学リポジトリ

Tokyo Gakugei University Repository

バービードールの教育的意義に関する考察：
ドールがもたらす教育的メッセージの変化：
第2次ドールリフォーム

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2021-07-06 キーワード (Ja): キーワード (En): Barbie, Ruth Handler, Charlotte Johnson, symbolic play, educational ends 作成者: 石渡, 圭子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2309/00173411

バービードールの教育的意義に関する考察

—— ドールがもたらす教育的メッセージの変化：第2次ドールリフォーム ——

石 渡 圭 子*

本稿は1960年代から1980年代前半までに焦点をあて、バービーが担うことになった教育的意義の発生要因探求を課題とする。バービーは製品化され61年が経つが現在も世界中で支持されている。玩具業界は競争が激しく開発研究には時間と費用を要するが、玩具の殆どが短命である。この点においてバービーは稀有な長寿玩具である。この長寿性はバービーが時代に即したメッセージ、すなわち教育的意義を提供することにより維持されている。バービーはファッションドールであるが、1900年代前半以来、ドール業界がファッションドールを基軸に生産することはなかった。

1900年代前半、世界の玩具市場を独占していたドイツで第一次ドールリフォームが発生した。その目的はフランス製のような豪華な衣装を纏った消費社会を象徴するドールの否定にある。ドイツのドールリフォームは良き母親になるための教育を念頭にしており、その目的のためにベビードールが生産された。この考えは欧米に広がりベビードールは明確な教育的目的を持った女兒対象の玩具として普及した。

バービーはベビードールと異なり女性のフォルムを持ち、教育的観点からもベビードールとは異なる機能を持つ。本稿ではバービーの出現を第2次ドールリフォームとみなす。バービー遊びをとおして女兒はバービーが体現する衣装から自分の将来に様々な職業や生き方があることを認識したり、着装規範意識やファッションセンスを向上させる。また人間性、社会性、道徳性をも涵養す

る。女兒はバービー衣装に魅惑され、バービーと遊び始めたことにより以上の学びを得た。これを可能にしたのは米国社会や経済がバービーの意図したメッセージを受け止められる状況になっていたからである。

バービーはマテル創始者の一人、ルース・ハンドラーにより考案され、バービーの衣装はシャーロット・ジョンソンによりデザインされた。この二人が第2次ドールリフォームの重要なアクターである。本稿ではこの二人のアクターによるバービー製品化過程を動体的に分析し、バービーの教育的意義、つまり当時の米国社会に呼応する教育内容の価値又は重要性を明らかにする。この課題検討のためにバービーに関する文献、ハンドラー自叙伝、バービーの過去から現在までのコスチューム、メトロポリタン美術館やヴィクトリア・アンド・アルバート博物館のオートクチュール・コレクション、シュレジンジャーアメリカ女性史図書館に所蔵されているハンドラーが残した書類・写真・記事を資料として用いる。

Key words

バービー、ルース・ハンドラー、シャーロット・ジョンソン、表象遊び、教育的意義、

*東京学芸大学大学院 連合学校教育学研究科 学校教育学専攻芸術系教育講座